万葉集と大伴家持

万葉集

現存する日本で最古の和歌集
全20巻・約4500首

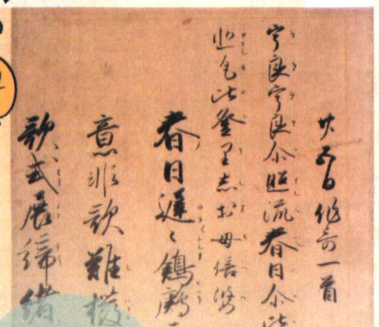
成立　8世紀中ごろから8世紀後半。

編纂者　最終的な成立段階で、大伴家持が関わっていると考えられる。

主な歌人　額田王・柿本人麻呂・山部赤人・山上憶良・大伴旅人・大伴家持など。

●大伴家持の歌が473首と最も多い。

墨遊書道会制作「巻子本万葉集」
（高岡市万葉歴史館蔵）
高岡市の墨遊書道会（書家近藤芳竹氏主宰）によって平成17年に制作された。万葉集全巻を書き写したもの。



「金沢文庫本万葉集」
（高岡市万葉歴史館蔵）
室町時代初期に書き写された万葉集。大伴家持の歌「うらうらに～」（巻十九・4292番）の部分の断簡。

大伴家持

奈良時代の政治家・歌人
養老2（718）年～延暦4（785）年

若い頃　内舎人（天皇のそばに仕える雑用係。有力氏族の子弟が選ばれる）として聖武天皇に仕える。

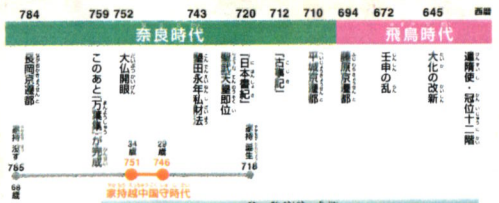
29歳　越中国の守（長官）として赴任。
●越中国の守在任中に詠んだ歌が『万葉集』に223首残る。

34歳　少納言となって帰京。

帰京後　最高傑作とされる「春の愁いの歌」を詠む。

37歳　兵部少輔（現在の防衛省次官に近い職）につき、防人の歌を集める。自らも防人に同情した歌を詠む。

42歳　因幡国の守として、正月の祝いの歌を詠む（759年）。この歌が『万葉集』最後の歌となる。
●これ以降亡くなるまで約20年間の歌は残っていない。



越中時代の家持と妻のビジネススーツ「朝服」
（高岡市万葉歴史館蔵）

高岡市万葉歴史館
〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮1-11-11　TEL 0766-44-5511　FAX 0766-44-7335　URL http://www.manreki.com

家持くん

越中万葉の世界へ

万葉集の歌4516首の内、越中に関わりのある歌を特に「越中万葉」と呼んでいます。
大伴家持が越中国守となって北陸の地に来たことにより「越中万葉」は生まれました。

『万葉集』の代表的歌人であり編者ともされる大伴家持は、今から約1260年前、越中国の守（長官）として、富山県高岡市に5年間赴任した。

その間に家持が詠んだ歌は223首、ゆかりのある歌を加えれば337首にのぼる。それらは「越中万葉」と呼ばれ、『万葉集』の17～19巻におさめられている。

奈良時代の越中国の国庁（当時の国の役所）は、富山県高岡市伏木の勝興寺の地にあったと伝えられている。

国庁には、守（長官）をトップに、介（次官）・掾（3等官）・目（4等官・越中国には大目と少目がいた）の5人と史生（書記官）が、都から赴任して勤務していた。

家持は、彼らとの交友の中で、海や山川、鳥や花を歌い、越中の豊かな自然と四季を満喫した。また、都に残してきた家族とも歌のやりとりをした。『万葉集』には、そうした大伴家持の日常が、日付を追って日記のようにつづられている。

家持にとって越中時代は、奈良の都から離れて住むさびしさはあったが、役人として、また歌人として、意欲的で充実した期間であった。

「越中万葉」は、古代の越中を知るうえでかけがえのない史料であり、『万葉集』全巻のなかでもひときわ光彩を放つ存在なのである。

奈良時代末頃の伏木台地
（古岡英明氏案をもとに制作・高岡市万葉歴史館蔵）

二上山より小矢部川をのぞむ

越中万葉の仲間たち

【　】の中の数字…セリフに関連する万葉集の歌番号
※当時は、位ごとに着られる服の色が法律で定められていた。

奈良の都 家持の家族 大伴家の人々

叔母 坂上郎女
平城京に住んでいる。義理の母でもある。恋多き女性だったとも。

遠い越中にいる家持が心配で何度も歌を贈ったわ【3927】

父 旅人
家持がこどもの頃に亡くなる。お酒が好き。武人の政治家。

私が九州の大宰府で開いた梅の宴を覚えていたのだね【4174】

親子　親子

妻 坂上大嬢
いとこでもある。妹がいる。家持と仲が途絶えたことがある。

夫の任期後半が越中に移りました。歌の代作は夫におまかせです【4198】

夫婦

大伴家持
守（かみ）
越中国のトップ職 国の長官

困ったことに、母と妹の名前は、わからないのです。永主（ながぬし）という息子もいますが、越中万葉にはでてきません

弟 書持
都で、越中に出発する家持を見送った数ヶ月後に亡くなってしまう。

一緒でいいから、越中の有磯海（ありそうみ）が見たかった【3959】

妹 留女の郎女
平城京に住んでいる。越中の家持夫婦と歌を交わす。「留女」とは、都にいる妹という意味。

山吹を見ると、兄さんについて越中に行ったお義姉さんのことを思い出すわ、会いたいです【4184】

越中ゆかりの人々

都の人

田辺福麻呂
橘諸兄（たちばなのもろえ）からの使者で、越中にやって来た万葉歌人。

すみません、布勢の水海（ふせのみずうみ）、あなどってました、いくら見ても飽きないです【4049】

山上憶良
家持が尊敬する歌人。父大伴旅人の歌の友達。息子が越中で歌を詠んだようである。

息子の歌が射水郡の駅の壁に飾られているらしい……【4065】

平栄
東大寺の僧。越中に来て、家持の歓迎をうける。越中には開田地を探しに来た。

お酒こちそうさまです【4085】

造酒司の令史（さけのつかさのさかん）

高市黒人
旅の歌で有名な万葉歌人。出張で雪の婦負野（めひの）を通過した。

北陸の雪はすごいので、悲しくなりました。【4016】

少咋の妻
夫の少咋が越中で浮気している噂を聞きつけ、都から早馬（はやうま）で越中国府に……。

ひたすら待っていたのにぃ（怒）【4107】

遊行女婦（接待役の女性たち）

土師
田辺福麻呂接待のための布勢の水海（ふせのみずうみ）遊覧に同行。

今日の舟遊びの楽しさ、夜々まで歌っちゃいます【4047】

蒲生娘子
縄麻呂の館で開かれた宴に同席。

雪の岩に植えたナデシコは千年もかわらず咲いて欲しいわ、あなたの長命のために【4232】

左夫流
少咋の浮気相手。

家持さま、私ってベニバナ染めのように、すぐ色あせるの？【4109】

浮気

夫婦

越中の職場の部下

介（すけ）
越中国で2番目に高い役職

内蔵縄麻呂
越中国で家持に次いで地位が高い。気配りのある風流な歌を詠む。

布勢の水海（ふせのみずうみ）の美しい藤の花を髪にかざして行きましょう、まだ見てない人のために【4200】

掾（じょう）
越中国で3番目に高い役職

大伴池主
越中で家持を出迎えた部下。越前国に転勤になる。家持と手紙で歌をやりとりする。

家持さまが病気の時、さびしがっていたので、たくさん歌のやりとりをして励ましてあげました【3967】

後任

久米広縄
池主の後任。家持が都に帰る時に出張中だったが越前で再会。

家持さま、帰京まぎわに歌ありがとうございます。一緒に舞狩りしたかったにです【4249】

大目（だいさかん）
越中国で4番目に高い役職

秦八千嶋
奈呉の海が見える客間のある官舎に住む。

家持さま、僕が玉だったら、本当に都に連れて行ってくれました？【3990】

後任

高安種麻呂
八千嶋の後任。自作の歌は万葉集にみられない。

家持さま、僕の知っている古歌、気に入ってもらえましたか？【4247】

少目（しょうさかん）
越中国で5番目に高い役職

秦石竹
宴を主催した時、百合の花を用意。琴が弾けるようだが、歌は1首も残らない。

家持さま、僕の琴、そんなにうまいですか？【4135】

史生（ししょう）
下級の書記官

尾張少咋
越中国で浮気をして、家持に注意される。

雪の人たちの視線が痛かったです【4108】

土師道良
万葉集に1首のみ。家持越中赴任の歓迎会の歌。

そろそろ、今日の宴はお開きですよ【3955】